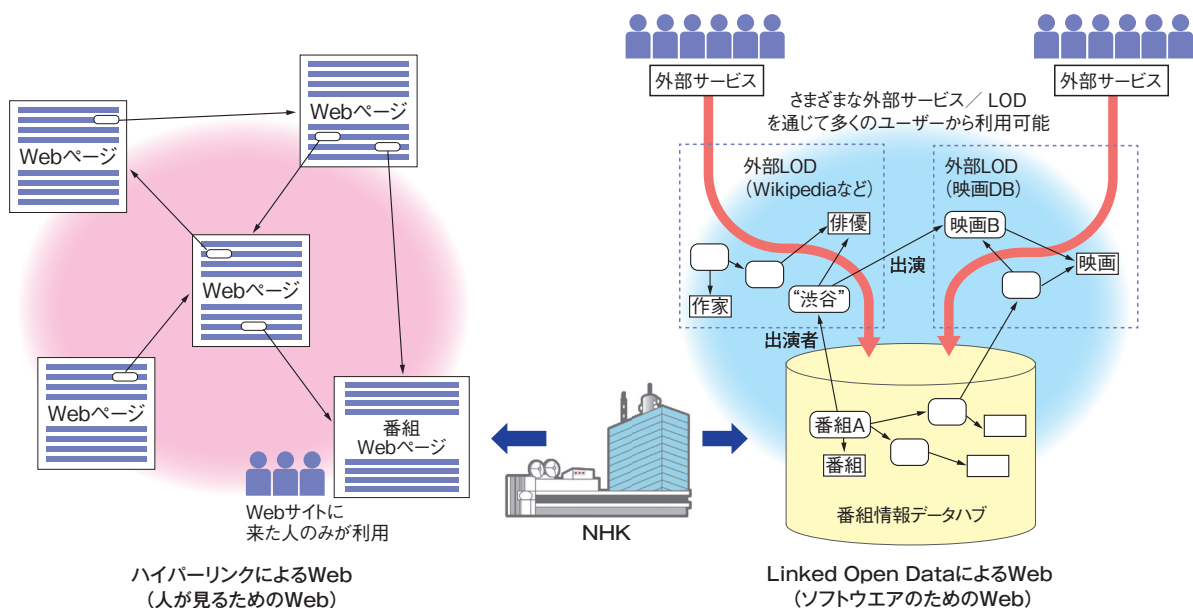


## 番組情報のLinked Open Data化の検討

インターネット上のWebページでは、ページ上のハイパーリンクをクリックすると、他のページに飛ぶことができる。このように、Webページ同士がリンクでつながった「Web」と呼ばれる空間を通じて、さまざまな情報を容易に得ることができるようになった。このWebは、あくまでも「人が見るためのWeb」であったが、Web上の情報が膨大になるにしたがって、その情報をソフトウェアが自動処理し、人々にさまざまなサービスを提供できるようにするという考え方が生まれた。インターネット上のさまざまな場所にあるデータを、ソフトウェアが処理可能な形式で表現し、さらにそのデータ同士を明確な意味を持ったリンク情報で結び付けることで、「ソフトウェアのためのWeb」を実現するのがLinked Open Data (LOD) という仕組みである。

当所では、番組情報をLOD形式で提供できるデータベース「番組情報データハブ」の開発を進めており、番組のタイトル、放送時間といった基本的な情報に加え、番組に関連する人物や場所、外部のデータとのリンク情報を、ソフトウェア処理可能な形式で蓄積している(1図)。例えば、ある番組「A」に「渋谷さん」という名前の俳優が出演していることを記述する場合、データベースの中で“渋谷”という文字で示すだけでは、それが「人名」なのか「地名」なのかを、ソフトウェアは判断することができない。「番組情報データハブ」では、番組に出演しているのが“渋谷”という名前の「俳優」であることを、外部データとの「出演者」リンクで明確に表現しており、これにより、番組情報を「ソフトウェアのためのWeb」上で活用できるようになる。ソフトウェアが番組情報データハブや外部データのリンクをたどることで、その俳優が映画「B」にも出演しているという情報が得られたり、外部サービスの利用者への番組情報提供なども可能となる。

今後は、番組情報データハブの高度化を進め、放送局の番組情報が、放送局内だけでなく、外部のさまざまなサービスやアプリケーションで活用できるような仕組みの実現を目指していく。



1図 番組情報のLinked Open Data化の概要